

庇があれば、蒸し暑い雨の日に窓をすっかり開けても雨は吹き込まず、風を思い切り入れることができる。

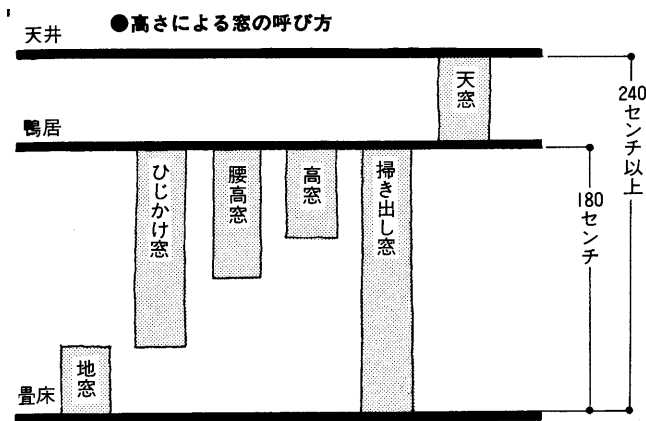
「雨の日は外の湿気が入り込むからいやだ」

とって、窓を閉じている人が多いが、実際は逆だ。部屋の中の湿気に比べたら、外はかなり湿気が少ない。梅雨時などは、思い切り窓を開けておきたい。

...

庇がやたら消えてから、日本の家は雨仕舞いが悪くなり、概して老朽化が早まった。

### 掃きだし窓



**東南**は風通しもよく、一番明るい場所だ。間取りの図面を考えると、とにかく、この場所には家の中で、もっとも多く使う率の高い部屋をとることだ。家族が日に一度は使う、あるいは出入りする部屋を。

台所、トイレ、洗面所、洗濯場など、水を使う場所（水場、水回り）はできるだけ近くにまとめて、東から東南にくるように設計するのが、うまいやり方だ。

...

どんなに水切り工事を完全にしても、**家はやはり水回り部分から傷んでくるもの**。水回りがあちこちに散っていたんでは、基礎工事もうまくあんばいできない。一カ所にまとまっていれば、生活するうえでも、非常に便利だ。台所をしながら洗濯できれば奥さん方の労働も随分と楽になる。

それと、水回り部分は絶対に西側を避けるのが鉄則だ。**西日のために排水の臭気が長い間には必ず上がってきて、木にしみ、家を早く腐らせる原因になる**。西便所などというのは論外だ

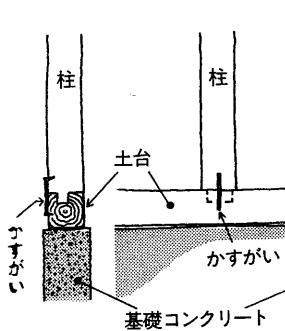
風呂場を広くすると、どうかすると、物を持ち込みがちだ。汚くなる。

風呂場は一つのタライと考えるとよい。隅から隅まで、きれいに掃除できるようでなければいけない。

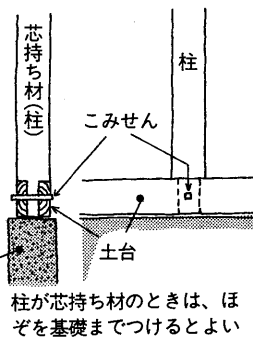
### 土台にはヒノキの芯持ち材を

部材選びに当たっては、土台は上物(うわもの)(建物)全体を背負うものだから、材質がとくに大事で、ないがしろにできない。土台は腐らないこと、減らないことが絶対条件だ。昔はクリ材なども使われたが、今は入手が困難になった。今、これ以外にないというのが、ヒノキの芯持ち材の赤身(あかみ)(木材の芯に近い茶色の部分)だ。これに防蟻(ぼうぎ)処理をする。土台にはこれにまさる部材はない。

●一般的な土台と柱のすえつけ方



●私のすすめたい土台と柱のすえつけ方



先だって解体した家がそうだった。土台は長い風雪に耐えられずに腐っていたが、柱がすべて芯持ち材だった。そのために柱が土台を突き抜けて、基礎の束石にくい込んで、それで家を支えていた。

米(べい)ツガに防腐剤を注入した土台が出回っている。だが、米ツガは防腐剤をいくら注入してあっても腐る。米ツガは値も安いし、何より軽くて作業が楽なために、やたらと重宝に使いたがるが、考えものだ。

アメリカでは湿気が少ないために、米ツガでも家が腐ることはないようだが、日本では無理だ。安手の建売り住宅がすぐにだめになってしまうのは、大半が注入土台を使用しているからだ。

それに、米ツガならまだしも、あるデータによると、業者が米ツガとして扱っていた木の中に、米モミが三割近くも混ざり込んでいたという。かつては棺桶ぐらいにしかなかった米モミなどをつかまされたときには、泣くに泣けない。強度がないから、重みでたちまち家が沈んでしまう。大工にしても、製材されてしまっている、米ツガも米モミも完全には区別しにくい。できない大工が多い。

柱が細いと、胴振(どうぶ)れする。

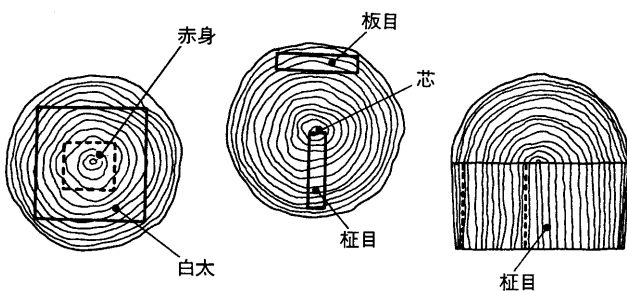
...

このごろは、昔でいう三三(三寸三分)の柱を使う家があるようだが、それではもちっこない。十センチ角というやつだ。十センチと十・五センチでは、たかだか〇・五センチの違いしかないが、その違いが大きくものをいうのだ。縦、横に〇・五センチずつ太くなってごらんなさい。文字通り、柱は一回り太くなる。柱の場合、二分の違いというのは、それはかなりのものです。

### 白身はアリが付きやすい

私らは白身とか白太(しらた)と呼ぶが、これは材木の外部、周囲のことで、ここはなかなかの曲者だ。腐りが早いし、やわらかいからアリが付きやすい。

#### ●白太と赤身、板目と柾目



白太は節が少ないがシロアリが付きやすい  
土台には赤身を使いたい

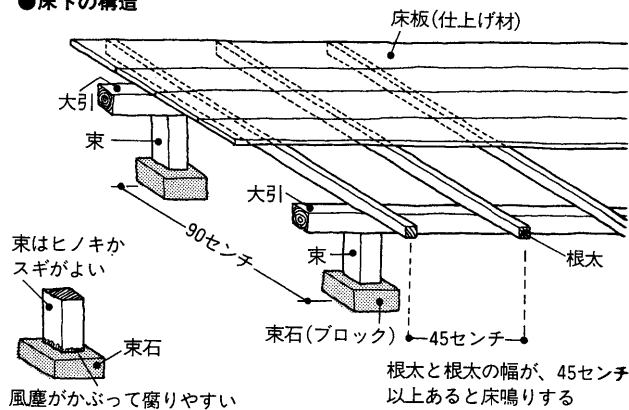
単に上等物だからといって、自太のついたものを土台に使ったのではよくない。節があっても、赤身のほうが土台にはいい。

...

「節のない最高のヒノキを土台に奮発しましたよ」

といわれて、悦に入るようなお施主さんでは、まことに頼りない。

#### ●床下の構造



床下はふつうは束石(つかいし)の上に束がのり、その上に大引(おおびき)を差し渡し、さらに根太(ねだ)で床板(仕上げ材)を支える仕組みになっている。床は床下のできいかんで、仕上がりによしあしが決まる。

...

問題は束だ。これにはどうしてもヒノキかスギの芯持ち材、それも赤身を使いたい。

床下は湿気があるうえに、いつも風塵(ふうじん)が舞っている。これが束の木口(きぐち) (束石との合わせ目)の周囲にかぶる。それが水気を吸って、束を腐らせる。すると、束がふやけて、床が下がってしまう。床下がりの原因の多くはこれにある。

束には腐りにくい芯持ち材の赤身を使わなくてはだめだ。

それと大切なのが束の間隔。通常は九十センチ間隔に一本入れるが、これを手抜きすると、早晚問題が起こる。

・・・

根太の間隔は最低四十五センチにする。これを守らないと一、二年もするとガタがきてしまう。

### ラワン材は構造には使わない

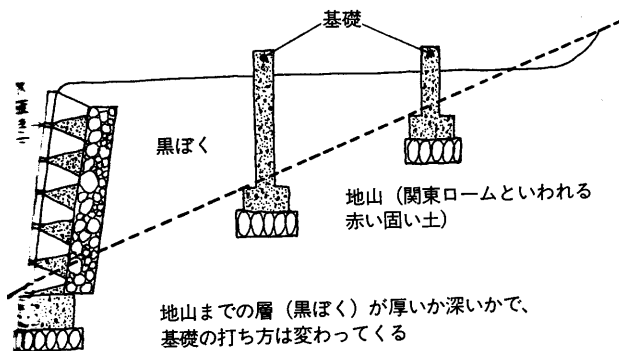
ラワンはタケやシュロと同じで、年輪がない。中がスカスカだ。だから、横に対する力がまったくくない。

### 集成材も捨てたものじゃない

接着剤の進歩は目を見張るものがある。一度ついたら絶対にはがれることがない。細い材料をのりではぎ足して、ある程度の太さ(柱)や厚さ(板)にしたものを集成材というが、これは強度の点からいっても、下手に白太(しらた)を使うより強い。

### 基礎は地山までおろす

#### ●基礎は地山までおろす



### 基礎は地山までおろす

いい地盤とは、固い土のことだ。地面にあらわれているのは、ふつうは黒ぼくといわれる黒いぼかぼかの土で、これはやわらかい。ここにいきなり基礎を打ったのでは、建物は重みで沈んでしまう。

基礎はたいてい、黒ぼくの下にある地山まで掘り下げて、ここに打ち込む。地山(じやま)というのは、関東なら関東ローム層のことで、赤くて固い土だ。だから、地山までの層(黒土)が浅いか深いかで、基礎のやり方は、随分と違ってくる。

## 根切りは地山まで掘り下げる

木造の家では基礎工事の手始めに根切りを行なう。家の外周線に沿って「やり型」という木枠を立て、その周りに溝を切る作業だ。

根切りの幅はだいたい四、五十センチが相場になっている。

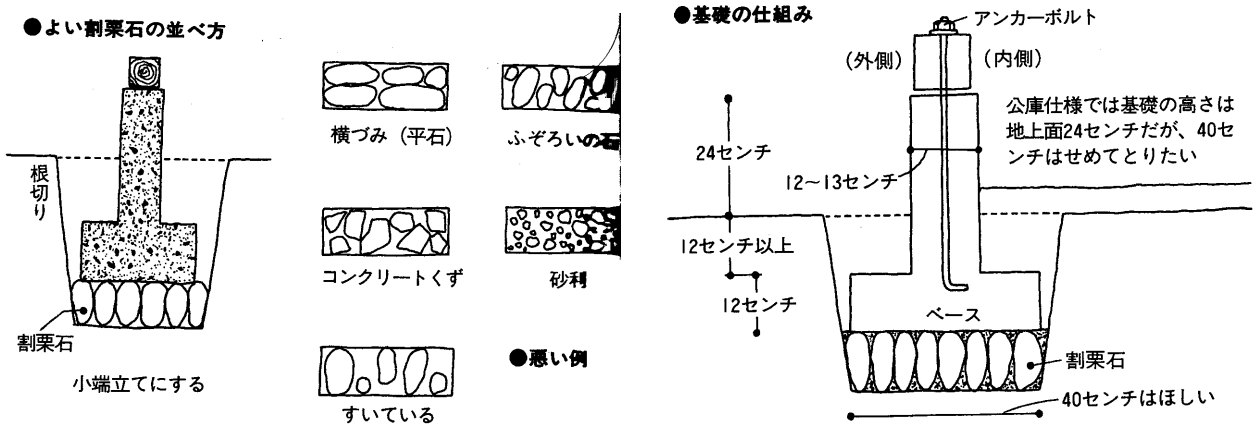
根切りは地山まで掘り下げないといけない。これを怠ると、前にいったように、突き固めているうちに、沈むことになる。基礎の第一段階の大事な作業だ。

...

根切りがすむと、その底に栗(ぐり) (割栗石わりぐり) を並べる。栗は基礎を安定させ、地を固めるおおもとなるものだ。

...

栗の役割は大きい。日本のように湿気の多い土地では、根切りにじかにコンクリートを流し込んだのでは、コンクリートが水気を吸ってうまくない。栗は必ず入れなくてはまずい。



高温多湿な日本の風土では、やや高床式にして、床下通風が充分にできるように考えないといけない。床下のじめじめは、シロアリの発生にもつながる。

公庫仕様でも異形鉄筋といって、簡単に抜けないように、凹凸をつけた鉄筋を入れるように指導している。うまく鉄筋が入れば、コンクリートと鉄筋が一体化して強度を増す。

いろいろな見解があるだろうが、鉄筋はどうしても入れなくてははいけないというものではない。それより問題なのは、コンクリートの強度だ。今はコンクリートを現場でこね合わせるより、調合済みのコンクリートをレミコン車で運んでくることが多い。

いい加減な調合のコンクリートが使われても、見た目にはわかりにくい。信用できる請負(棟梁)に頼んだ場合は間違いないが、あとで欠陥が出るケースも少なくないので油断できない。だから私は、コンクリートの調合に目を光らせる。

「鉄筋をたっぷり入れておきましたから、大丈夫ですよ」

と鉄筋の数の多さを見せられて安心するお施主さんがいるが、鉄筋に惑わされないように。ぶちあけた話をすれば、鉄筋などはいくら使っても、安いものだ。鉄筋の数に比例して、基礎が強くなることはないことは覚えておいてほしい。

## 基礎コンの養生はしっかり

基礎を打ち終わったあとに、**天端(てんぱ)**ならしといって、コンクリートの表面を平らにする作業をする。このとき、炎天下などの場合は、乾燥でコンクリートにひびが入らないように、その上にもや寒冷紗(かんれいしゃ)をかけて打ち水をする。

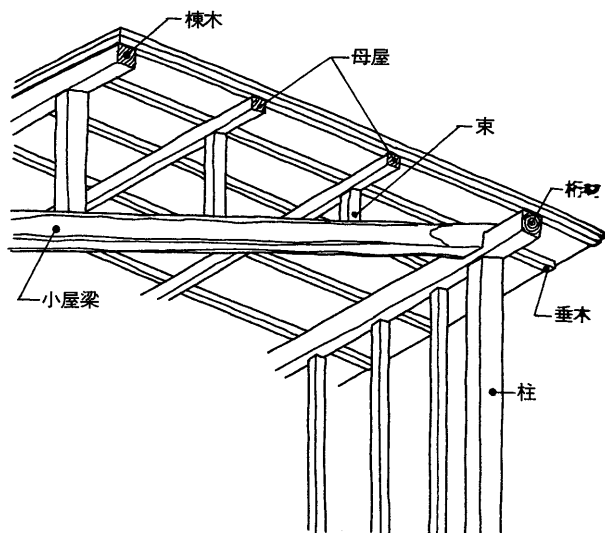
これを私らは養生というが、養生を怠るとコンクリートが強さを発揮しない。

また、コンクリートの強度を弱める**ジャンカ**という空洞の発生を予防するために、型枠を木槌でトントンとたたいて、コンクリートを締めてやる作業も大事だ。

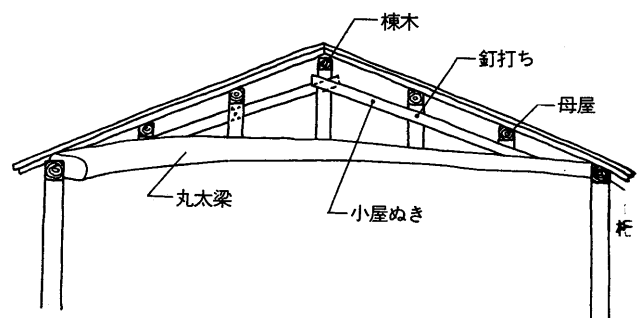
基礎に土台がつき、柱が立ち、**胴差(どうざ)**し（一階と二階の境目に入る横材）、**小屋梁(ぼり)**、**棟木(むなぎ)**などを上げる家づくりの骨組みになる作業を、一日で一挙にやってしまうのが**上棟**、いわゆる**建前**だ。

**棟札(むなふだ)**もつけなくちゃまずい。建築年月の記録とともに、お施主さんの名を入れて、その工事の記念にしたい。

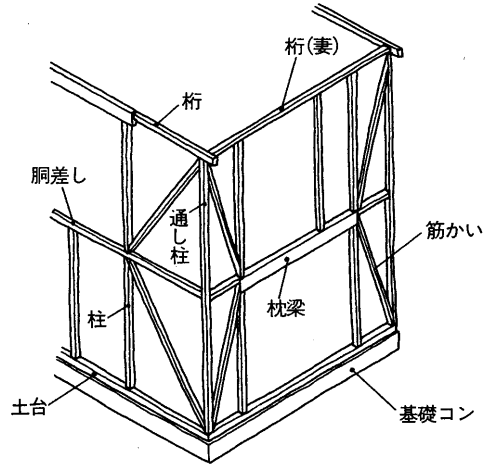
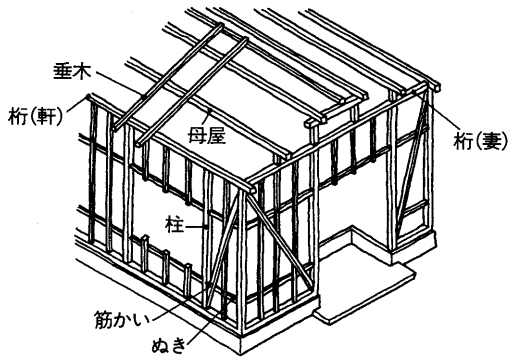
棟札は**真束(しんづか)**にとりつける。真束は**小屋梁(こやぼり)**の上に立てて、**棟木(むなぎ)**を支える束のことで、これがないと棟がのらない大事な柱だ。別の名を**うだつ**という。棟札は家を災難から守ってもらうために、**鬼門位**といわれる方角に向けてつけるのが決め。おろそかにできない。



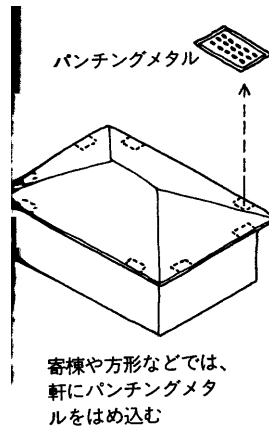
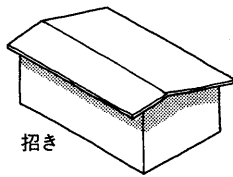
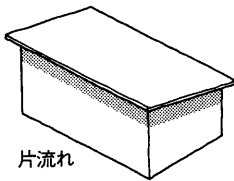
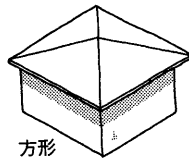
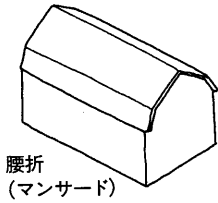
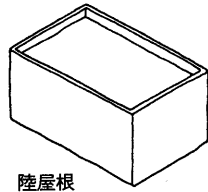
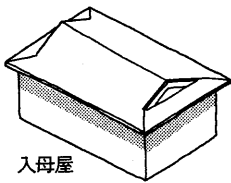
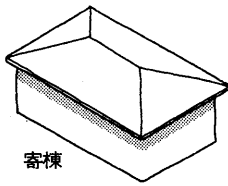
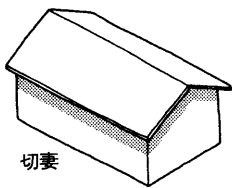
●小屋組みの仕組みと名称



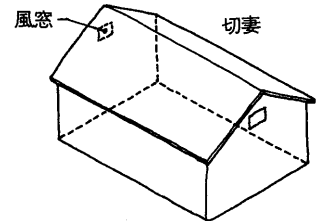
●和住宅の骨組み



●屋根の形のいろいろ



●風窓(空気抜け)は必ずとりたい



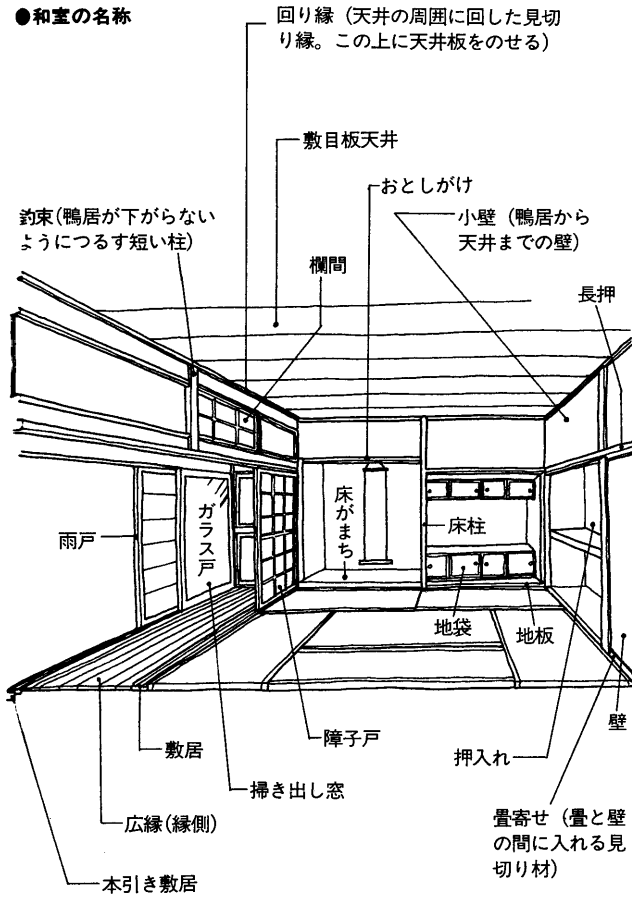
一般的な形で一番  
風の通りがよい

かわら棧の傷みは低勾配が原因

かわら棧(ざん)というのは、屋根にひっかがわらをのせるときにとめる棧(細長い横木のこと)だ。かわら屋根の場合、割れたり、外れたりするのは、かわらそのものの傷みより、かわら棧の傷みによるものが多い。

かわら棧に水が回って腐ってしまえば、かわらの重みに耐えられずに、かわらが動く。ずれてきてすき間ができる。雨漏りの原因になる。

●和室の名称



鴨居の線上に壁に沿って柱から柱にかけての横材が長押(なげし)だ。

...

パネル構造といわれる柱のないプレハブの家でも、このごろは内部造作に長押をとりつけている。



「りゃんこ張り」とは、同じ寸法のを決まった間隔にずらして貼り付ける方法のことです。そのため、地域によってはりゃんこ張りのことを「ずらし張り (ずらしばり)」と呼ぶこともあります。



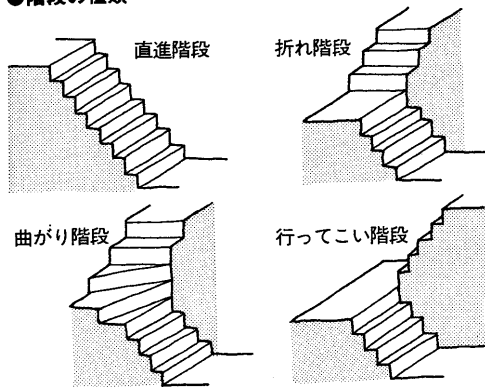
屋根裏がのぞける改め口は必要

ふつうは押入れの天井の一端をぴったりふさいでしまわずに、屋根裏に侵入できる



改め口を備えておく（登り降りの便を考えるなら、押入れに設けるよりは縁側の外れのほうがよいが、縁側のない家も多くなった）。

●階段の種類



蛇口は終始酷使するものだ。パッキンがすり減ってポタポタ水の垂れるトラブルは使っていれば必ず起こるものだ。この故障は、器具が検定品のしっかりしたものであれば素人にも簡単に直せる。パッキンやコマを新しいものとかえてやるだけでいい。

...

パッキンの交換ぐらいいちいち水道工事屋に頼むのでは情けないし、第一、費用（日当）も馬鹿にならない。

●知っておくと便利な設備記号

Ⓒ	天井灯	—+—	給湯管
Ⓔ	蛍光灯	⊗	給水栓
Ⓑ	ブラケット	⊗	給湯栓
Ⓓ	コンセント	∇	シャワー
Ⓕ	換気扇	⊗⊗	混合水栓
Ⓜ	電動機	○	給水口
●—	スイッチ	⊙	排水口
●///	切りかえスイッチ	⊗	排水 <sup>※</sup> 枘
—/—	配線、配管	⊗	汚水 <sup>※</sup> 枘
▭	分電盤	▭	格子 <sup>※</sup> 枘
WHM	電力量メーター	—M—	水量計
Ⓗ	局線電話	<ガス工事>	
Ⓚ	押しボタン	—G—	ガス配管
Ⓛ	ブザー	⊗	ガス栓
Ⓣ	テレビアンテナ	—GM—	ガスメーター
□	テレビ端子 (以上電気工事)	<衛生工事>	
<給排水、給湯工事>		○	和風大便器
---	給水管	Ⓛ	洋風大便器
—	排水管		

## 水道の漏れは始終気をつける

道路から蛇口まで、半年にいったんは、配管の経路をたどって、変にじめじめしている場所がないかを検査したい。

また、漏水しているときは、家中すべての蛇口を閉めても、メーターが動いているから、こんな方法でも発見できる。

家は一カ所でも沈みだすと、重みが全部、その下がった箇所に集まるので、永久にそこに荷重がかかり、とりかえしがつかなくなる。不等沈下というやつだ。これが非常に怖い。

基礎は建物がのっているかぎり、いじりようがないので、沈下は絶対防がなくてはいけない。

漏水が案外その原因になっていることが多いので、早期発見のための検査はおろそかにできない。

・・・

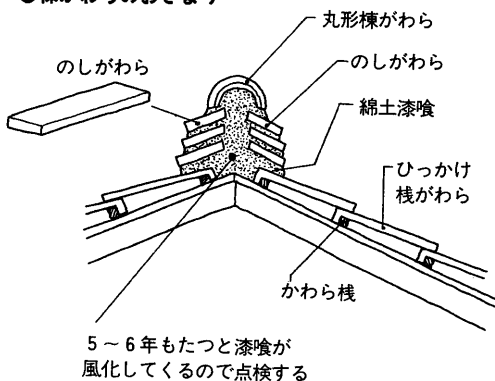
基礎を沈下させ、家を老朽化させるもっとも大きな原因になるのが雨水だ。

といを通して、きちんと排水されていれば問題はないが、霧よけ庇などで、地面に雨水がそのまま落ちる場合、雨だれが穴ぼこを掘ることがある。

五年に一回は屋根職人に点検を頼むようにするといい。

「まだ大丈夫、まだいいや」と放っておき、雨漏れなど起こしてしまってからでは、手間も経費もかさむ。

### ●棟がわらのおさまり



家の内外を問わず、乾かすことが家を長もちさせるコツだと述べた。

・・・

よく、使わない部屋の雨戸を閉めっ切りになっている家を見かけるが、どれだけ家を傷めているかしれない。

家は住んでいれば長もちするが、空家にするとすぐがたがくる。これも、人が住んでいれば、開口部を開けたてするから、気が通い家が呼吸できるからだ。